

芸能からみる寛永行幸一天皇と能、武家と雅楽— ～「寛永行幸四百年祭 寛永文化講座」を5月17日に開催～

- 寛永行幸四百年祭実行委員会（事務局：京都府）では、4月に開幕する「寛永行幸四百年祭」の機運醸成を目的とした様々なイベントを実施しています。
- 饗応の場で披露された能楽や雅楽が行幸においてどのような意味をもったのかなどを探る文化講座を開催しますので、周知と取材をお願いします。

1 日時

令和8年5月17日（日）
【第1部】 11時～12時40分（10時30分開場）
【第2部】 14時～16時10分（13時30分開場）

2 場所

京都府立京都学・歴彩館 大ホール（京都市左京区下鴨半木町1-29）

3 内容

【第1部】 「天皇と能—寛永行幸をめぐって」

11時～12時 講演「天皇と能」

講師：松岡心平（東京大学名誉教授）

寛永行幸の際に二条城で武家の芸能ともいえる能が天皇の前で演じられたことはいかなる意味を持っていたのかを、能楽の歴史とともに天皇との関係という視点からお話しいたします。

12時～12時40分 対談

登壇：松岡心平、林喜右衛門（能楽師シテ方/林家十四世当主）

寛永行幸の際に上演された曲目や出演者から、能楽の歴史とその現代的意味について対談していただきます。

【第2部】 「武家と雅楽—寛永行幸をめぐって」

14時～15時 講演「寛永行幸と雅楽」

講師：山田淳平（奈良県文化財課主査）

朝廷の儀礼を支える芸能である雅楽が武家の城で演じられたことはどのような意味を持っていたのか、武家政権の儀礼秩序の中でいかに位置づけられていったのかを、寛永行幸を手がかりに雅楽の歴史についてお話しいたします。

15時10分～16時10分 対談

登壇：山田淳平、小野真龍（関西大学客員教授、天王寺楽所雅亮会理事長）

寛永行幸の際に演じられた雅楽の曲目や編成から、雅楽の歴史とその現代的意義について対談していただきます。

4 参加方法

専用サイト（Peatix）から申込 ※定員になり次第受付終了

申込期間 令和8年4月13日（月）10時～5月15日（金）正午

URL：【第1部のみ】 <https://kaneibunka0517-1.peatix.com>

【第2部のみ】 <https://kaneibunka0517-2.peatix.com>

【第1部・第2部の両方】 <https://kaneibunka0517-1-2.peatix.com>

【第1部のみ】



【第2部のみ】



【第1部・第2部の両方】



- 5 定員
先着 400 名（参加無料）
- 6 取材について
取材を希望される場合は、10 時 50 分までに会場受付へお越してください。
- 7 主催等
主催：寛永行幸四百年祭実行委員会（文化庁連携プラットフォーム内）
共催：公益財団法人有斐斎弘道館、一般社団法人 Living History KYOTO
協力：下鴨神社糺能保存会

8 寛永行幸四百年祭の今後の主な予定

<寛永文化講座>

- 6 月 27 日（土） 講師：笠谷和比古氏
7 月 5 日（日） 講師：フレデリック・クレインス氏
8 月 2 日（日） 講師：依田 徹氏

<寛永行幸四百年祭記念式典・基調講演・能楽公演>

- 9 月 5 日（土） 基調講演 講師：熊倉功夫氏
9 月 6 日（日） 能楽公演

<寛永行幸行列再現イベント>

12 月 6 日（日）

【参考】

- 寛永行幸
寛永 3 年（1626 年）9 月に大御所・徳川秀忠と 3 代将軍・徳川家光の招きに応じた後水尾天皇による二条城への行幸。当時最大級のイベントであり、書物や絵巻などで記録に残され、後世に語り継がれてきた。
- 寛永行幸四百年祭実行委員会
「寛永行幸四百年祭」の実施を通じた「寛永行幸」及び「寛永文化」の普及・啓発や二条城の新たなブランドの確立等により、京都をはじめとする日本の伝統文化の継承や担い手の育成、伝統産業の振興等をつなげ、「文化と経済の好循環」を実現し、その全国のモデルケースを創出することを目的とし、文化庁連携プラットフォーム内で組織した団体。
- 文化庁連携プラットフォーム
文化庁京都移転の意義の実現に向けて、文化庁との連携による新たな文化政策の展開や、世界に向けた日本文化の発信等を行政、経済界、文化団体等が一体となって展開し、日本文化の国際的な価値を高めることを目的とし組織した団体。

【本報道発表に関するお問合せ】

文化庁連携プラットフォーム（京都府文化政策室内）
文化生活部副部長兼文化政策室長 梅原 TEL 075-414-4215
文化政策室 企画参事 須田 TEL 075-414-5071

